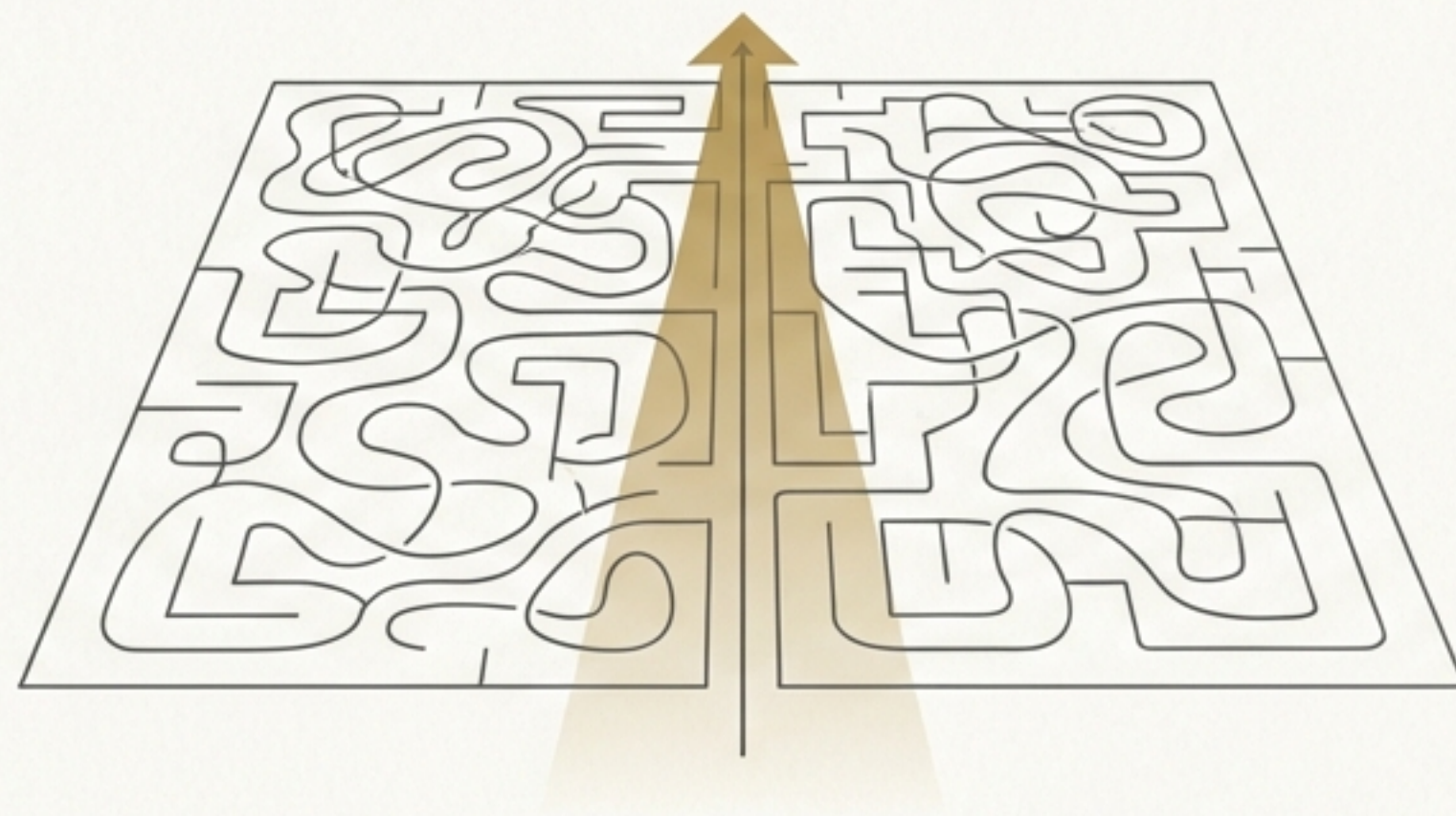


なぜ、あの会社のビザは 「一発で」通るのか？



元行政官が明かす、特定技能ビザ審査をクリアする「5つの急所」

行政書士アレックス国際事務所

**「また不許可だ…」
御社だけの問題ではあ
りません。**

**せっかく内定を出した人材が就労
できない。これは、企業にとって
計り知れない損失です。**

- ・ 特定技能ビザを申請したが、結果は「不許可」。
- ・ 終わりの見えない追加資料の要求で、審査が完全にストップ。
- ・ 時間とコストだけが浪費されていく。



不許可の根本原因は、ただ一つ。

入管審査官が
「どこを、どう見ているか」を
理解していないこと。



提出された書類の「裏側」にある事業の実態や将来性を、彼らは見抜こうとします。
この「審査のツボ」を知らないまま申請するのは、暗闇の中を手探りで進むのと同じです。

なぜ、「審査のツボ」を教えられるのか？ 答えは、35年間の行政経験にあります。



京都府庁に35年間に在籍し、
行政の「内部」から、数え切れないほどの
申請と審査の力学を見てきました。
審査官が何を求め、何に疑問を抱き、
どうすれば納得するのか。
そのロジックを熟知しています。

行政書士アレックス国際事務所

審査官が光を当てる、5つの「急所」



1. 企業の経営安定性



2. 日本人との報酬の同等性



3. 業務内容と試験区分の一致



4. 社会保険・税金の支払い状況



5. 支援計画の実効性



CHECKPOINT 1: 企業の「経営安定性」が証明できているか

入管の視点：「この会社は外国人を継続して雇用する体力があるか？」

ここが急所

直近の決算が赤字の場合、決算書をただ提出するだけでは「体力なし」と判断されます。



官視

OFFICE

数字の裏にあるストーリーを添付する。
なぜ赤字で、今後どう黒字化するのか。
「行政が納得する論理」で構築された
事業計画書が不可欠です。





CHECKPOINT 2: 日本人との「報酬の同等性」に疑いはないか

不許可の最大原因：「外国人だから安く雇える」という考えは通用しません。

ここが急所

貴社に日本人の同等職種がない場合、審査官は近隣他社の賃金相場と比較します。根拠なき給与設定は即座に見抜かれます。



官視

元行政官の視点

なぜその金額なのかを「客観的な根拠」で示す。整備された賃金規定が、最も強力な武器になります。



CHECKPOINT 3: 業務内容と「試験区分」が一致しているか

特定技能は、許可された業務範囲が厳格に定められています。

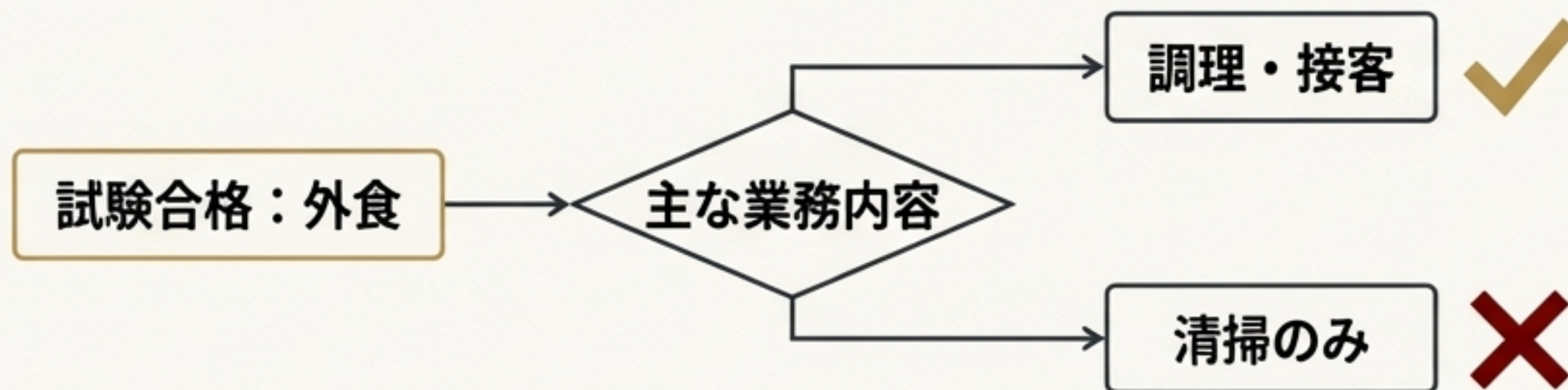
ここが急所

具体例：「外食」の試験合格者が、現場では「清掃」業務ばかり。これは不許可、または在留資格取消しの対象です。



元行政官の視点

申請時の「理由書」が鍵を握ります。合格した技能が、現場の実態に即してどう活かされるのかを、具体的に記述することが不可欠です。





CHECKPOINT 4: 「社会保険・税金」の支払いに滞りはないか

審査官は、企業と外国人本人、双方の義務履行を厳しく見ています。

ここが急所

厚生年金、健康保険、税金の未納は致命的です。技能実習からの移行者の場合、実習生時代の素行も審査に影響します。



元行政官の視点

申請前に「完納証明」を準備する。本人に未納がない認する社内フローを構築し、万一あれば完納させてから申請するべきです。



CHECKPOINT 5: 「支援計画」に実効性があるか

特定技能1号の外国人には、生活支援など10項目の義務的支援が必要です。

ここが急所

自社支援の体制が書類上だけで、実態が伴わないと判断されれば、許可は絶対に降りません。



元行政官の視点

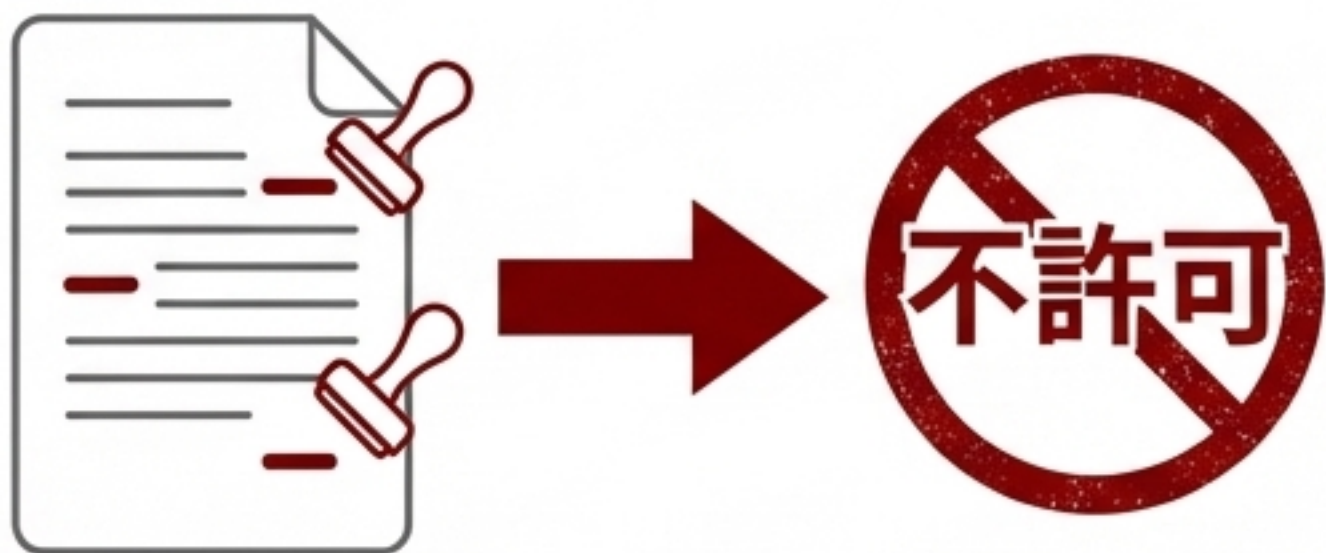
実績ある登録支援機関への委託が、審査官に安心感を与える近道です。特に「多文化共生の現場」を熟知した専門家の介在は、評価を大きく高めます。



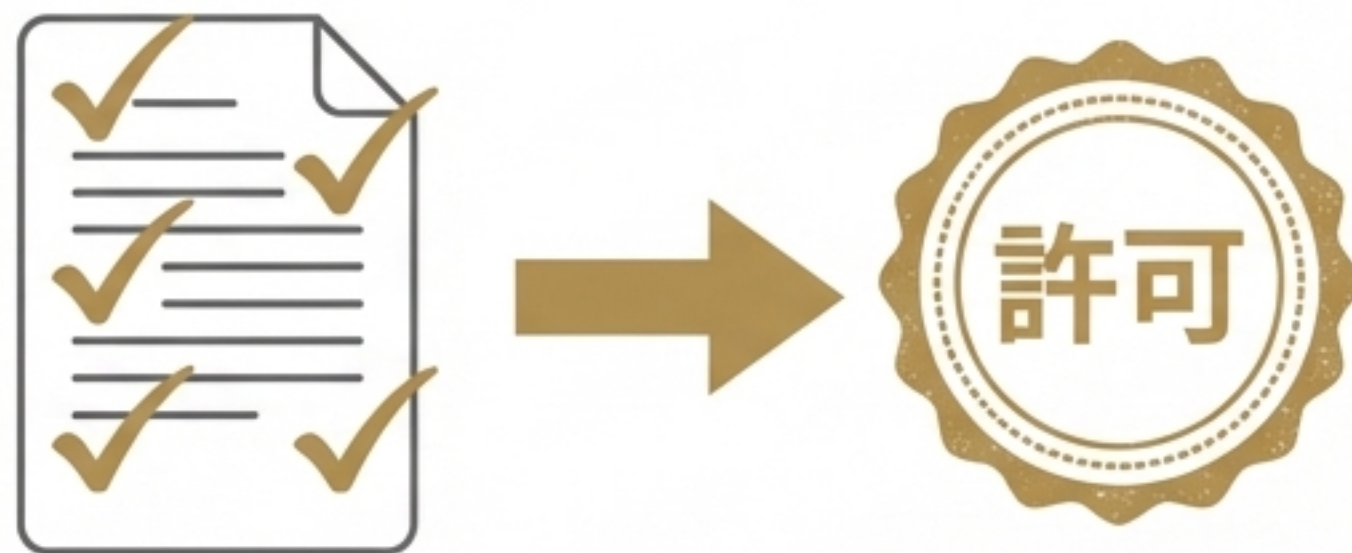
審査官の思考を理解する：「減点方式」というルール

入管審査は、満点から始まるテストです。一つでも疑わしい点、不明瞭な点があれば、容赦なく減点され、説明を求められます。

不許可ルート



許可ルート



しかし、これはチャンスでもあります。

「審査官が知りたい、懸念するであろう情報」をすべて先回りして提示すれば、減点される要素がゼロになり、審査は驚くほどスムーズに進みます。

許可は、戦略で勝ち取る。

行政書士
アレックス
国際事務所



私たち、行政書士アレックス国際事務所の役割は、単なる書類作成代行ではありません。

35年の行政経験に基づき、審査官の視点から貴社の状況を分析し、最適な「許可の戦略」を立案することです。

不許可のリスクをゼロに近づけ、安心して新しい戦力を迎え入れる準備を、私と共に始めませんか。